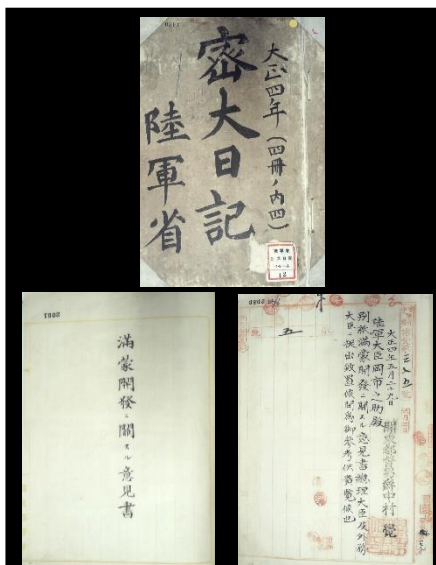


戦史研究センター史料室では、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、同史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 なかむら さとる 中村 覚 1855～1925年 》  
—滋賀県出身の陸軍大将—



**旅順方面に於ける第三軍戦闘詳報** (登録番号：戦役-日露戦役-220)  
中村覚大将は、明治5年教導団に入り、8年少尉に任官、10年5月には中尉となり、西南戦争に従軍しました。その後、参謀本部、歩兵大隊長、師団参謀などを経て、24年12月からは東宮武官となり、25年9月中佐、27年の日清戦争には、大本営侍従武官として明治天皇に供奉して広島に赴きます。12月には大佐となり、戦後は、歩兵第46連隊長、東部都督部参謀長を経て32年9月少将に昇進、台湾総督府陸軍幕僚参謀長、35年3月には歩兵第2旅団長に補せられました。37年3月からは日露戦争に出征し、当初は、第2軍の隷下において南山などで戦い、5月第3軍編成に伴い同軍の隷下となり旅順攻略戦に参加します。中でも、11月、軍の特別支隊(白樺隊)を指揮したことは有名です。この史料は、同隊の戦闘詳報であり、支隊長である中村の攻撃直前の気迫を読み取ることができます。



**満蒙開発に関する意見書** (登録番号：陸軍省-密大日記-T4-4-12)  
この特別支隊は、中村が、第3次総攻撃を控え、松樹山補備砲台への夜襲などを乃木希典軍司令官に意見具申し、編成されたと言われています。中村は、「決死以て目的の達成に努力すべし」と訓示、明治37年11月26日午後5時攻撃前進を開始します。中村は戦闘中、大腿部に敵弾を受け負傷、帰国します。その後、中村は、38年4月教育總監部参謀長となり、7月には中将に昇進します。40年1月第15師団長となり9月には男爵を授けられます。中村は、41年12月侍従武官長に補され、明治天皇崩御後は、大正天皇にも奉侍し、二人の天皇に仕えます。大正2年8月東京衛戍総督、3年9月関東都督、4年1月には大将に昇進します。この史料は、関東都督の中村が、未開の満蒙に「焦眉の急務」として、鉄道と拓殖銀行の設立を陸軍大臣に訴えたものです。その後中村は、6年7月軍事参議官、8年2月予備役となります。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線：03-3260-3011

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>